



繪本申越軍記

初編

五

2258
5



達 13
2258
5



繪本甲越軍記卷之五

目録

老臣竊漫武田信虎幸并遠蒙使今川景幸

板垣後河守勝信席園

今井市郎使今川景園

今川義元日軍武田家老臣幸義元勝計之幸

信虎到駿河幸

出信虎於今川景幸

信虎到駿河幸老臣奇計圖

小前田先生編 井金小二郎一代記	三十大尾
新説伊藤專三編 曉天星五郎一代記	三十大尾
怪談牡丹燈籠 三遊亭圓朝演述	三十
藍同 原多助一代記	四十大尾
業同 平文治一代記	全

和漢小説貸本所

大岡小西屋政談	十二
近世小説 河内山實録	五十大尾
繪本 星月夜頭晦録	三十 大尾
大郷 燕山外史	二冊

一御花... 御座... 御...
 年来か... 本渡... 仕... 御... 御... 御...
 翻訳書... 御... 御... 御... 御... 御...
 仕格別... 御... 御... 御... 御... 御...
 御... 御... 御... 御... 御... 御...
 誠光堂謹白

東京橋區弥左門町十三番地
文永堂 大嶋屋傳右衛門
同牛込區細工町十六番地
誠光堂 池田屋 清吉



甲州農民喜勝行吉改圖

武田右衛門從中左衛門尉 武田實盛之幸

甲州並河出馬之幸 武田勢勝治河之幸

並崎別陣之圖

武田勢勝治河之圖

繪本甲城軍記卷之五

14 老臣竊謾武田信虎事 并遣密使於今川景幸

君之視臣如土芥則臣視君如寇讐... 武田右衛門從中左衛門尉 武田實盛之幸... 甲州並河出馬之幸 武田勢勝治河之幸... 並崎別陣之圖 武田勢勝治河之圖



不詳



板垣駿河守
 騎信虎



甲斐守

敵の敵
敵の敵
敵の敵

光

とて御家督を定めて幸い。國乃一大事に以て長尾連と名乗る。其の
君廢去の旨に申出させし。御家の威光を著す。尚一たび其の飛ぶ遠き
侍るものわんやせ。二月十日。源虎守を。七也。三月。二月十日。源
板垣駿河守を。是れ。右の人を。退け。小室。之。御。も。は。老。屋。を。年。數
母の。御。も。老。年。の。御。も。軍。務。を。身。を。方。う。た。る。御。も。
近來。何。も。く。慌。惚。と。物。を。ま。ま。る。御。も。御。も。御。も。御。も。
決定。先。主。を。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。何。の。子。に。家。と。傳。へ。ん。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
絶。せ。ん。清。玉。の。大。敵。は。南。と。よ。國。を。抱。持。を。北。と。よ。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。我。家。の。古。老。物。を。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。

甲

とて御家督を定めて幸い。國乃一大事に以て長尾連と名乗る。其の
君廢去の旨に申出させし。御家の威光を著す。尚一たび其の飛ぶ遠き
侍るものわんやせ。二月十日。源虎守を。七也。三月。二月十日。源
板垣駿河守を。是れ。右の人を。退け。小室。之。御。も。は。老。屋。を。年。數
母の。御。も。老。年。の。御。も。軍。務。を。身。を。方。う。た。る。御。も。
近來。何。も。く。慌。惚。と。物。を。ま。ま。る。御。も。御。も。御。も。御。も。
決定。先。主。を。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。何。の。子。に。家。と。傳。へ。ん。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
絶。せ。ん。清。玉。の。大。敵。は。南。と。よ。國。を。抱。持。を。北。と。よ。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。我。家。の。古。老。物。を。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。
と。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。御。も。

47

甲
越

今井
市郎
使
今川
家



終
日
未
見
日
出
山
屋
吉
福
城

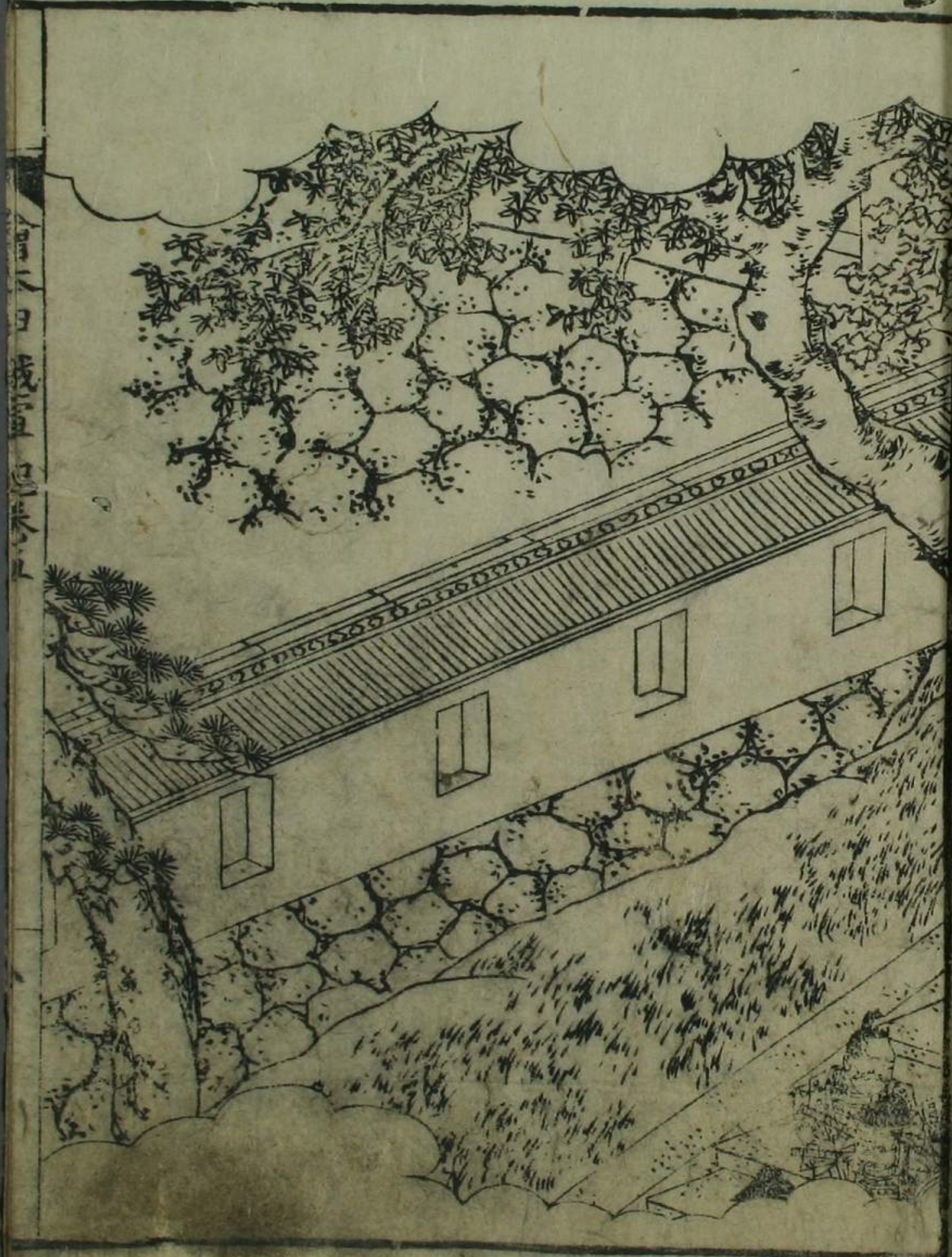
今人傳人と存せられたれば、
彼家もまた別して穴山に居りて、
を説きよめさせしむるに、
投年無事の天野之、
是れ長しと有りければ、
余山因其利、
合に五日、
の極中、
書く君、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、

甲越

四人がくく出来ば、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、
穴山、

推

拒



信虎往
駿州



信虎往
駿州

是代足利家の元祖... 其子上總介義兼... 其子足利左馬頭義氏... 一男上總介満氏... 二男四郎國氏... 今川上總介范氏... 後河本と賜... 後河本を... 范氏... 上總介氏親... 義元... 二男義元... 足利今川... 故と... 堀律寺... 義元... 是より

是より

今川治朝... 今川治朝之補義元... 其子... 武門... 子兵起... 夫時... 上落... 都... 武田... 親... 室家... 是より

甲越

是より

越

信虎
到于駿州
驚老臣之
奇計





甲州農民
喜晴信
善政



惟あつて是を成すべくそのなりし所今亦左馬合侍榮月孫六佐連小幡鐵助の
 虎盛流利式於補任青諸角を以て昌清教来石民於小幡美段中山
 因縁之希程なり。此虎の厚恩を慕ふ事あり。今も城より同恩と
 され國平平うも治より百姓院道の人よりまたも頼事あり。是より
 昭位武田十九代の系改相續し。今も所年十八歳あり。
 武田左郎誕生事 并 氏真出生事 是
 武田之勝を棄てて唯唯と情任國勢の事か執り。國法の新改を敢て先思あり。
 美矣。罪あるは殊異。氏を村育し。今も治より。甲州既平平治より
 命定む。物は極三傑たるは取原之頼之。所真女。去々年入雲より。頼
 なく。知港例するは。津幡勝のより。今も治より。所新頼と。今も治より。頼
 月平平平存の頼之。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼

母及流士の脱び一方あり。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 津幡を治より。成長の信より。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 真中申す。西家連枝の回男子誕生あり。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 甲州並侍出馬事 并 武田勢出馬事
 茲時佐列本村より。後射義清。酒後佐流。高頼。重本。右馬頭。義昌。小
 美原。大膳。大長。時より。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 互ひ小幡家。合戦。後。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 武田家。向。後。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼
 次第。遠光。子。相。後。今も治より。所真女。去々年入雲より。頼

系降死を長宗佐明作志と程き其子と形言大孫志是長時之長時
 の代母市子。武田と系と長時虎と程と不程と程。是は虎元記より
 一族没亡する状あり。忽ち河原の中絶く。幸く合戦。市子。虎。然
 らざる不仁の人と云ふ。勇猛強氣なる上。武田を飛ぶ大將。小室
 原親。少小毎く利を失ひ。つひて武田家没亡。長時。河原の慥に
 勝さんと思ふ所あり。武田親。少小。不悦の事起り。時。長時。小室
 虎。城。没。列。度。去。せ。れ。ば。半。日。方。に。い。ま。う。は。ば。時。長。時。を。去。へ。ん。ん
 也。源。傍。信。時。頼。成。の。方。へ。使。者。を。外。へ。合。さ。ん。下。に。お。わ。く。は。信。虎。の。妹
 尊。親。一。と。あ。つ。こ。縁。も。と。中。あ。ぐ。近。本。信。虎。の。無。道。る。成。成。し。ま。が
 少。少。と。同。言。し。ゆ。ふ。彼。家。没。亡。さ。ん。也。救。同。智。魯。成。め。ぐ。さ。る。徳。不。信。虎
 救。率。の。回。罪。も。た。め。の。を。救。し。忠。臣。と。ぞ。付。け。し。天。罪。の。あ。や。け。は。許

姉子時長がための中國城逃如され時長も其父も依を奪ふ事し、
 父を廢去せる不孝の徳、天何ぞ先著の者と專らめ、んや、今信虎を
 遊出せし、信時、國中の徳士、おれ、阿、五、の、不、善、公、成、り、た、り、
 ぬ、あ、る、天、晴、け、時、長、を、去、る、に、成、下、さ、し、信、成、一、時、を、ま、も、も、櫻
 二軍を起し。武田家と亡く後、甲州の徳を二分し、お。お。お。の。得
 分。と。さ。た。な。う。也。懲。勅。中。中。地。り。な。れ。六。種。を。一。族。も。と。召。さ。し。終。不
 同。心。抄。長。本。有。村。上。の。雨。取。を。依。が。た。事。あり。て。軍。勢。成。出。た。也。徳。時
 小室原の両軍合せて九千六百餘騎。天文七年七月、上旬、甲州へ侵入
 氏親と殺し、青縮を前。武田八幡の塚。漏山を右。ま。は。り。し。瀬。梨
 河原。並。時。を。攻。入。し。つ。ひ。は。甲。府。少。雨。後。時。長。七。夕。の。夜。を。依。り。と。幕
 下。れ。時。を。受。あ。ふ。し。も。落。小。徳。方。を。後。を。あ。り。小。室。正。徳。傍。の。雨。旗。既

信長日記



並
 陣
 對



並
 陣
 對

糸ノ目 走軍言者云

其基テ原邊ナド見ハ由言トハ情候少クモ警ルレタラシク西家ノ軍勢
 其万人出ルベクハシク其味方一隊セシテ幸成ケル
 押上セシヤモ見テテハ後方モ信虎君ノ討陣ヲ受身ト爲ラレ市
 川並井青沼古釜小鹽ガ等成一人も用ヒシト兼ク予に對シ別心
 有レ腹心ノ者成引率一處あり雨來ノ勢ハ激盛ニ有ルベク也
 軍勢ト推進スル先主信虎ノ厚意成テテ引クも引クこと也
 之時信虎を怒テテ書成ありぬ是等書成有レ妙ニテテ其
 勢ハ六子條強クモ就レテテやテ陣を解ケテ六隊ト成リ先陣
 之候家兵於テ捕二陣と其利備有也三陣と小山岡備中もはは
 板垣強也其次と時信ノ旗本有テ後陣と今井信房も日向和
 也徳和の左方も有テ石民於テ捕原邊候也小幡織初二横田

備中も安間藤田の等六隊の勢也是日備中十八日午の別甲候と成
 ぬの標も標と成リテ對テ梨ヶ原へ至ル堀川藤梨とテ二ツの川を隔
 テ方々小部隊を見テテ移テ流傍小並原の軍勢九十六百餘騎上
 列信列の地士どもは及の合戦を幸ひ小甲列へ入リ味方の坊裏民
 家も焼合報も成リテテ家裏の材木と却さんと其勢ニテ海
 ぐやと其勢の勢も加テテ是等其勢と合セテ方々至リ人取山のうみ
 陣成テ藤梨河原等成有ル也其旗向風上吹流ラセ替くと備
 たりも其小信信の市勢堀川の山方小並原とテ天日も其勢
 有レ其も其勢一は小並原と燒ケ引クも其勢も其勢の西家の勢
 也武田の二千餘騎先光活々として一之の早斗地も其勢も其勢
 中にて其勢も其勢堀川を隔テ一之の勢成有テ其勢も其勢も

會本甲越軍記卷八

合戦し二宮の安危城をせん也旗のふん出の地をうばふは浪防小
 笠原西東し使表母信の士より人使をさう武田のほくせや云せぬ
 我事お家は武田の一族として性骨を懸懼の同なりあるふに
 佐虎彼やうふ一統と亡し其采地を奪ひゆは虎狼の害を成す
 是をゆるはらるるに敢て平兵衛合戦も申ひ唯能くもお分り
 佐虎様無事の身成せ光果して廢去の恥辱を蒙りたるは平兵衛
 足下も控も父と違わし信り成はせしめて得る小坂原を奪う
 櫻より偏の道に小坂原を我事平兵衛和義してゆり此れ親類の眼
 をおぼるう今敢て表兵を引率し敢ておぼるをい地も是なり
 申さ足下の出馬を待たしうう好む印の別互の小坂原に合戦し
 存亡と二家の津流小坂原を戦の対列をふゆ懸懸るゆにあり

是元平兵衛小坂原を思惟し中違はるるなり其所以も信りゆ
 美幸の上將と申すも智謀武勇猿猴の條に比ぶるべし其
 生得るゆに成りし家中の不和れ時を申すも自然に違はるる
 の軍勢別を失や成を隣玉の如く成りし事成るに敢て日あつた
 甲列へ攻入るも是れをゆるぎぬるや寄るも是れ地利を損んる
 屯し養うる城或場の地と定先諸軍の軍機を申すゆに妙を懸懸
 兵使を遣し両家津流の山中に育状をふし時信その邊の山に
 信りゆ約束したる対列を遠反の別をく陣をわし意が糸と目
 かけ崖川を起す時其備をなせり川を渡り此れ其意を申す
 よる美幸路も下しゆゆいゆに戰場も出るゆに不意に懸懸
 んこの結構るも時信使を派し對面し終ひ作戦なく有返一小

朝務

桐

合戦し二宮の安危城をせん也旗のふん出の地をうばふは浪防小
 笠原西東し使表母信の士より人使をさう武田のほくせや云せぬ
 我事お家は武田の一族として性骨を懸懼の同なりあるふに
 佐虎彼やうふ一統と亡し其采地を奪ひゆは虎狼の害を成す
 是をゆるはらるるに敢て平兵衛合戦も申ひ唯能くもお分り
 佐虎様無事の身成せ光果して廢去の恥辱を蒙りたるは平兵衛
 足下も控も父と違わし信り成はせしめて得る小坂原を奪う
 櫻より偏の道に小坂原を我事平兵衛和義してゆり此れ親類の眼
 をおぼるう今敢て表兵を引率し敢ておぼるをい地も是なり
 申さ足下の出馬を待たしうう好む印の別互の小坂原に合戦し
 存亡と二家の津流小坂原を戦の対列をふゆ懸懸るゆにあり

扶

武田勢
涉鹽河



繪本甲越軍記卷五



繪本甲越軍記卷五

二十

先陣の備を破るは陣の守を破る也... 龍中の若者も引退し... 敵の援合も馬の... 敵の援合も馬の... 敵の援合も馬の... 敵の援合も馬の... 敵の援合も馬の...

此の本をく後... 河を渡りて... 河を渡りて... 河を渡りて... 河を渡りて... 河を渡りて...

繪本田越軍記卷之五

池田

二

Handwritten mark or signature in black ink, possibly a stylized character or initials.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in black ink and includes several lines of dense handwriting. There are some red ink markings or corrections interspersed throughout the text. The text is contained within a rectangular border.

